

土田杏村 つちだ あんじく 評論家。明治二十四年一月十五日新潟縣生れ、昭和九年四月二十日歿（二九二—一九三三）。本名茂。ツトキ 筆名つとむ、杏、杏村生、浦野濱男、茂、觀夢幻庵生等。大正七年京都帝國大學文科大學哲學科卒。十年個人誌『文化』創刊。のちマルテ主義を批判して河上肇等と論争。日本書家土田夢徳の弟。『土田杏村全集』全十五卷（昭和十年—十一年第一書房）刊。

著書『生物哲學』（大正五年四月十八日東京堂書店）、『文明思潮と新哲學』（大正六年二月十日石川文榮堂）、『靈魂の彼岸』（大正九年七月二十日聚英閣）、『啞の如く心語る』（大正十一年二月十日内外出版株式會社）、『華嚴哲學小論攷』（再版・大正十一年六月一日内外出版株式會社）、『社會思潮十講—建設者同盟講演集』（合著・平野力二編、大正十一年六月十日同人社書店）、『流言』（大正十二年一月十五日小曲書店）、『戀愛のユートピア』（内題「戀愛のユウトピア」文藝哲學研究會編、大正十二年二月二十一日小曲書店「文藝哲學講座」）、タゴール著・由良哲次譯『タゴールの人生論』（解説五版・大正十二年九月一日内外出版株式會社）、『戀愛の諸問題』（大正十四年九月十五日第一書房）、『文學論』（大正十五年十一月十五日第一書房）、『源平盛衰記物語』（昭和二年十一月二日アルス『日本兒童文學』）、『國文學の哲學的研究』（昭和二年十一月八日第一院）、『文學の發生—國文學の哲學的研究—第一卷』（昭和二年十月二十日第一書房）、『ユートピア社會主義』（昭和四年六月一日日本評論社



- 「社會科學叢書」）、
 「上代の歌謡—國文學の史的的研究—第ニ卷」
 （昭和四年八月二十五日第一書房）、
 「戀愛論」（普及版・昭和四年九月十五日第一書房）、
 「思想問題」（昭和四年十月十日日本評論社「時事問題叢書」）、
 隨筆「草煙心境」（昭和四年十月十五日第一書房）、
 「生産經濟學より信用經濟學へ」（昭和五年一月十日、普及版・十一月十日第一書房）、
 「文明は何處へ行く」（昭和五年二月）、「千倉書房」）、
 「ワルキシズム批判」（昭和五年七月十五日第一書房）、
 瀧澤馬琴作「八犬傳物語」（譯、昭和五年九月十八日ヤルズ「日本兒童文庫」）、
 「現今教育學の主問題」（昭和六年四月十日第一書房）、
 「短歌論」（昭和七年四月十日第一書房）、
 「現代世相論」（昭和七年六月五日千倉書房）、
 「文學理論」（昭和七年七月五日第一書房）、
 「桃山時代障屏畫概説（桃山障屏畫集緒）」（昭和七年十月二日京都・マリヤ畫房）、
 「日本詩歌の發達」（白田宗治編、昭和七年十一月）、「千白金屋堂「分冊現代詩講座」）、
 「思想・人物・時代」（昭和七年十一月）、「千五百千倉書房）、
 「文學と感情（國文學の哲學的研究）」（昭和八年二月十五日第一書房）、
 「思想讀本」（昭和八年四月）、「千白日本評論社）、
 「結婚論」（昭和八年五月十日第一書房）、
 「宗教再建」（昭和八年五月）、「千白大雄閣）、
 隨筆集「紫野雜記」（昭和八年八月七日第一書房）、
 「明日を呼びかける」（昭和八年十一月十一日千倉書房）、
 「國家社會主義を排撃す」（合著、昭和九年一月）、「千白祖國會出版部「祖國會パンフレット」）、
 「人生論・宗教論・人間論」（昭和十二年十一月十五日第一書房「戰時體制版」）、
 「妻（與）へかへ田舎村の手紙」（長谷川巳之吉編、昭和十六年十一月

二十五日第一書房)、可入生論・宗教論 (昭和十六年十一月二十日
第一書房「戰時體制版」)、ヨ子代子への手紙 (岡田正二解説、昭
和二十一年十一月二十五日全國書房)、ヨ象徴の哲学 (付垂巖哲学小
論叢) (上木敏郎解説、昭和四十六年一月八日新泉社「叢書」存者の復
興」)等。